

第14回

全国校区・小地域福祉活動サミット

in 北海道

イランカラッテからで、どうでしょう

大会HP (<https://shouhuku2021.com>)

【開催日時】

2021年 10/22 (金) 13時30分～16時30分

10/23 (土) 13時30分～16時30分

【開催方法】

Zoomを使用したオンライン形式

(市町村によっては社協が集合形式で会場を設置できる場合があります)

【参加対象】 小地域福祉活動に関心のある方

【参加費】 (①②のいずれの申し込みも、後日にサミット全録画DVDを送付します)

①市区町村社協等の団体 サテライト会場 (同一施設・敷地) 1カ所につき1万円

※同一施設・敷地であれば、会場を複数設営することは可能です。また、会場を分けることで、同時開催の2つの分科会を1万円で視聴いただけます。

※同一市区町村内であっても、上記以外の場合は、別に(複数)お申し込みください。

②個人 3,000円

【主催】 第14回全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道実行委員会

【共催】 小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク

【後援】 社会福祉法人全国社会福祉協議会、社会福祉法人北海道社会福祉協議会、
社会福祉法人札幌市社会福祉協議会、地域福祉・ボランティア情報ネットワーク、
北海道クロスサポーターズミーティング企画委員会

本事業は北海道共同募金会「赤い羽根共同募金助成金」、北海道社会福祉協議会「令和3年度北海道社会福祉総合基金一般公募助成金」、みずほ教育福祉財団助成金を活用して実施しています。

実行委員長あいさつ

全国の校区・小地域福祉活動にご尽力のみなさま、お待たせ致しました。やりますよ～、やりま
すともサミット！

令和2年1月26日に埼玉県狭山市における前回、第13回大会にてサミットフラッグを引き継
いでから、その年の10月開催を目指しスタートラインに付いた私たち北海道での道産子実行委員
会メンバーです。その後意に反して、新型コロナウイルス感染症の広がりに伴い1年程度の延期を
余儀なくされてしまいました。しかし、今、数々の困難を乗り越えて、この連続としたサミットの
歴史における初のオンライン開催に漕ぎつけました。

フラッグをお受けした時、「道産子の、北海道の開拓者魂、フロンティアスピリットのもと、『イラ
ンカラプテからで、どうでしょう!!』のテーマにて、オール北海道、ワンチームでお迎えしま
す！」と宣言致しました。この想いは変わらず、更にバージョンアップしております。

「数々の困難」は、全国の実践者のみなさまこそ、顔面で受け止めているに違いありません。お互
いの距離を裂かれ、下を向き、首を横に振りながらも、わたしたちが熱く語ってきた、実践してき
た“つながり”とは何だったのか、このままで良いのか、と多くの不安と疑念と猜疑心が、時には
差別と誹謗中傷が渦巻く中で、自らを奮立たせ、お仲間と力を合わせ、今出来ることの最善を目
指し、頑張られてきたことでしょう。

正に「コロナ禍における小地域福祉活動」をサミットの基本テーマと致しました。「コロナ禍に負
けない！」で、それぞれの“場”で抗い続けてきた各地の実践から学び、まだまだ続くであろう
“with コロナ時代”への展望を探りたいと思います。限られた時間、限られた条件の中で精一杯
準備させていただきました。

泣く泣くのオンライン開催です。みなさんと Face-to-face で直接会
いたい、せっかく北海道が、札幌が担うのだから、北の海の幸、山の
幸を堪能していただきたい、北だからこそその美味しい酒を呑みかわした
い。そんな思いを振り切って、オンラインだからこそそのメリットをプ
ラス思考で探りながら、全国のみなさんをお迎え致します。

どうぞ、われらが北の大地へ！陽は東方より昇る！
北に熱い想いを集め、北から全国に発信いたします。



第14回全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道実行委員会
実行委員長 小野信一

小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク世話人代表あいさつ

小地域福祉活動を楽しむネットワーク(小福ネット)からひと言ご挨拶いたします。新型コロナウイルス感染拡大で開催を1年延期しましたが、感染は収まらず、開催が危ぶまれました。でも、北海道の実行委員会のみなさんの変わらぬ熱意と惜しみない尽力でWEBによる開催に漕ぎつけました。まず、実行委員会のみなさんの力強い結束と実行力に感謝するとともに敬意を表します。

慣れないリモート会議にもかかわらず、発見したことは「離れていてもつながれる」という経験でした。顔を見せあって、対話を重ねていく集いは住民の地域福祉活動には欠かすことのできないものだと思います。インターネット時代にはWEBによるコミュニケーションの方法も活用の仕方次第と思えるようになりました。

むしろ、遠く離れていても費用をかけないでバーチャルだけ集える良さもあるとか、集いの経費そのものを低くおさえることができ、集会参加費も安くおさえることができるのではないかと考えることができるようになりました。

北海道に集うのに飛行機やバス・電車を使わないで済ませることが経済効果を縮減させることになるかもしれませんが、地球に優しい脱炭素化社会をめざすなら、これからの時代に見合った校区・小地域福祉活動サミットの新しい開催スタイルになるのではとも想像します。時代の節目ともいうべきICT時代の集いを北海道で開催する意義は計り知れなく大きいものと確信しています。大がかりな経費をかけなくても実質的に実のある住民交流、住民連帯の集いが実行できることこそ、住民自治と助け合いを求めてきた小地域福祉活動の主旨に適合しているものだと再認識しています。

北海道には足を運ばない、北海道に宿泊もしない、経済的なメリットがほとんどないに等しい、このWEBによる新しい開催スタイルを判断してくださった北海道の実行委員会の皆さんにあらためて心から感謝するとともに、学びの深まる全国集会の盛会を願って、ご挨拶とさせていただきます。



小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク世話人代表 牧里毎治

開催趣旨

身近な地域で支え合う「小地域福祉活動」は、すべての人々の役割を創出するだけでなく、地域社会のつながりを強めるためにも意義のある取り組みです。これらの活動には、そこで暮らす様々な人たちが同じ地域の仲間として、つながりや思いやりをもって主体的に取り組んでいくことが大切です。

本サミットは、小地域福祉活動に取り組む実践者同士の交流の場、全国の取り組みを学ぶ場です。しかしながら、昨年は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)感染拡大のため、対面による本サミットの開催を中止せざるを得ませんでした。今年は感染症の感染状況が見通せないなかで、本サミットをオンラインで開催することになりました。

オンラインではありますが、本サミットの間を通して、参加した方々が地域への思いを再確認し、更なる活動への意欲を高める機会となることを目的として開催します。

プログラム

1 日目：10月22日（金）13：30～16：30（180分）

13：00～ オンラインの接続開始

13：30～14：45 全体会（75分）

13：30～13：45 オープニングセレモニー（15分）

開会式（あいさつ）

全体会趣旨説明

13：45～14：30 講演「コロナ禍における小地域福祉活動」（45分）

講師：山田英孝氏（津別町社会福祉協議会会長・津別町議会議員）

14：30～14：45 コーディネーターから質問

榎部武俊氏（釧路社会的企業創造協議会代表理事）（15分）

14：45～15：00 休憩（15分）

15：00～16：30 分科会（90分）

分科会1 「コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫」

分科会2 「子ども食堂から小地域福祉活動への展開と実際」

2 日目：10月23日（土）13：30～16：30（180分）

13：00～ オンラインの接続開始

13：30～15：00 分科会（90分）

分科会3 「小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！」

分科会4 「地域住民が主体となる小地域福祉活動や生活支援の仕掛け!、工夫！」

15：00～15：15 休憩（15分）

15：15～16：30 全体会（75分）

15：15～15：40 各分科会からの報告（25分）

15：40～15：55 総括コメント（15分）

牧里每治氏（小地域福祉活動を楽しむ全国ネットワーク 世話人代表）

15：55～16：10 大抽選会（15分）

16：10～16：30 閉会式（20分）

次期開催地へフラップ引き継ぎ

閉会あいさつ

第1分科会 コロナ禍でのサロン活動の苦難と工夫

キーワード：サロン活動、コロナ禍

趣旨：地域住民にとってサロンは出会いや仲間づくり、健康づくりの場であり、ボランティアをするものにとっては、地域で役割をもって活動することで楽しみや生きがいを感じられる場でもあった。サロン活動は、地域住民が気軽に交流できる場を設け、そこに集うことをきっかけに、サロン以外の場でも日頃からお互いに声をかけ合い、気にかけてあえる関係を築くことを目指してきた。しかしコロナ禍により、サロン活動は休止、縮小を余儀なくされた。

実践報告者①：【北海道札幌市】手稲区前田地区福祉のまち推進センター

事務局長 手倉森 洋子 氏、ほか事務局員の皆さん

コロナ禍で休止を余儀なくされたサロン活動の実際に迫っていき、コロナ禍でも取り組んだ戸別訪問による声かけや安否確認等を通じて、コロナ禍でも続けられるサロン活動について考えていく。

実践報告者②：【富山県黒部市】浦山自治振興会まちづくり推進員／浦山地区社会福祉協議会担当
岡田 千春 氏

黒部市浦山地区では防災士でもあるまちづくり推進員の岡田さんならではの視点で地区住民が危機管理意識を高め日頃から安心安全のための取り組みを定期的に取り入れながらも、とにかく楽しく過ごせるように、できる範囲で自然体の協力体制づくりを目指した地域支援活動の調整役を担っている。コロナ禍でも対策をしっかりと取り関係者の合意形成を得ながら実践を積んできた。

コーディネーター：前宝塚市社会福祉協議会常務理事 佐藤 寿一 氏

分科会運営担当者：大井戸 麻衣（札幌市社会福祉協議会）

第2分科会 子ども食堂から小地域福祉活動への展開と実際

キーワード：子ども食堂、居場所、小地域

趣旨：子ども食堂は、子どもたちや大人にとっても自宅や学校、職場以外の居場所となりつつある。なぜ、地域に子どもやそれらを取り巻く人々が集う子ども食堂のような居場所が必要とされるのであろうか。分科会では、地域住民の手による子ども食堂の展開に着目し、小地域での福祉活動の展開と実際を考えていく。同時にコロナ禍で実践が窮地に立たされ、活動の縮小を余儀なくされながらも活動を継続するために工夫したことや新たな取り組みなども織り交ぜて考えていきたい。

実践報告者①：【北海道苫小牧市】NPO 法人木と風の香り 代表理事 辻川 恵美 氏

木と風の香りでは、子どもの貧困を目の当たりにして始めた子ども食堂から、空き家を活用した居場所づくりの実践。そして「虐待を予防するカギは地域で子育てを分担すること」の考えの下、子どもを取り巻く社会的課題への取り組みなどについてお話をいただく。さらにコロナ禍において“つながりを絶やさない”子ども食堂のあり方について考えていく。

実践報告者②：【富山県氷見市】ひみキトキト子ども食堂ネットワーク 代表 向 優子 氏

氷見市社会福祉協議会こども支援課 チーフ 澤田 有紀 氏

ひみキトキト子ども食堂ネットワークでは、コロナ感染下、こどもたちとその保護者を「食（カレーライス）」を通して支援できないかと考えて、市内全域（8か所）でこども食堂を実施した。三密を避けるため、キッチンカーを利用したドライブスルー形式で実施。この活動を含めた子ども食堂のニーズに合わせた展開について考えていく。

コーディネーター：勝部 麗子 氏（豊中市社会福祉協議会福祉推進室長）

分科会運営担当者：櫻井宏樹（苫小牧市社会福祉協議会）

第3分科会 小地域福祉活動を“福祉”×“教育”から実現する！

キーワード：福祉×教育小地域福祉活動

趣旨：小地域福祉活動は、地域住民主体の福祉活動やネットワークづくり、組織化などを必要とする。特に地域住民の主体性や参加をどのように促すべきであろうか。そのように考えるとき、あらためて“福祉”×“教育”の重要性が、学校・地域・社会で浮かびあってくる。そこで本分科会では、小地域福祉活動を支える鍵となる地域住民やその担い手となるであろう人々の根底にある“福祉”を問いつつ、“地域の中での教育”を小地域福祉活動との実際の中で考えていきたい。

実践報告者①：【北海道当別町】社会福祉法人ゆうゆう 荻原 唯 氏

高校生・大学生などに対して、障がいのある方々の「不自由さ」にフォーカスするのではなく、「本音や暮らしに触れる」という従来の福祉教育とは異なった視点から、“あたりまえ×リアル”な福祉教育を追求している。

実践報告者②：【埼玉県坂戸市】よりあい*ええげえし 事務局長 須田正子氏

(埼玉県福祉教育・ボランティア学習推進員)

「よりあい*ええげえし」の須田正子さん、地域での出会いを大切にしつつ、『誰もが・地域で・元気に・自分らしく生きる住みよいまちづくり』『閉じこもらず・よりあい・自分の暮らしをデザイン(創造)して・元気な高齢者』を目指し、学び合うことを大切にして、多彩な活動をしている。コロナ禍でも、つながりを絶やすことなく、90歳以上の参加者もオンラインでの活動を継続している。活動の実際を紐解き、お互いさまの関係づくりと、学び合い交流する姿を追求する。

コーディネーター：牧野 郁子 氏 (鶴ヶ島市社会福祉協議会地域福祉担当主査)

分科会運営担当者：櫻井 耕平 (江別市社会福祉協議会)

第4分科会 地域住民が主体となる小地域福祉活動や生活支援の仕掛け！、工夫！

キーワード：地域住民の主体性、小地域福祉活動、生活支援体制整備

趣旨：地域住民が主体的に生活や地域での支え合いをいかに醸成すべきか。小地域福祉活動や生活支援体制整備等は、地域住民の主体性や地域での支え合い等を醸成する取り組みを引き出す。地域住民の主体性や地域の支え合いを促す仕掛けや工夫を小地域福祉活動や生活支援体制整備等から考えていきたい。同時にそれらの取り組みの仕掛けや工夫、特色についても着目していきたい。

実践報告者①：【北海道池田町】池田町社会福祉協議会 事務局長 佐藤 智彦 氏

池田町のふまねっとやそれを支える地域住民の活動、またコロナ禍での地域住民が主体的にオンライン上でつながれる環境づくり等を小地域福祉活動や生活支援体制整備等についてお話いただく。

実践報告者②：【宮崎県都城市】都城市社会福祉協議会 下徳 真吾 氏

高齢者や地域住民の居場所づくりや交流の場を目的に、生活支援コーディネーターと地区社協の働きかけで発足した活動。自治公民館単位で、みそ汁・おにぎり・漬物・お茶のみで行うこととなっており、頻度等についても自分たちで話し合い、自分たちで決めている。活動の中で、防災対策や組み込み開催することもあるなど、さまざまな展開をしている。

コーディネーター：高橋 良太 氏 (全国社会福祉協議会地域福祉部長)

分科会運営担当者：高橋 修一 (北海道社会福祉協議会)

お申し込みのご案内

参加登録（申し込み）について

■サミット参加費（両日・どちらか1日参加とも）

①市区町村社協等の団体 サテライト会場（同一施設・敷地）1カ所につき1万円

※同一施設・敷地であれば、会場を複数設営することは可能です。また、会場を分けることで、同時開催の2つの分科会を1万円で視聴いただけます。

※同一市区町村内であっても、上記以外の場合は、別に（複数）お申し込みください。

②個人 3,000円

※①②のいずれの申し込みも、後日（年末までに）にサミット全録画DVDを送付します。

後日お送りするDVDを使って区域・圏域内の住民のみなさんに観ていただくのは自由です。

■参加登録方法

参加ご希望の方は、本サミットホームページから、参加申し込み欄に必要事項をご入力いただきWebで10月8日（金）までにお申し込みください。

参加ご希望の方は、チケット購入サイト「Peatix」の本イベントページから、申込みを行ってください。お振り込みが確認された後、10月19日（火）に一斉に、オンライン参加URLやパスワード等の必要情報をメールにてお送りします。

注意点

※ お振り込み後のキャンセルに伴うご返金には対応いたしかねますので、くれぐれも慎重にお申し込みください。

※ 10月20日（水）時点で、メールが届いていない場合は、メールにてお問い合わせください。

※同一市区町村内であっても、区域・圏域が異なる場合は別にお申し込みください

領収書について

● クレジットカード決済の場合

カード会社から送付される「ご利用明細書」や「引き落とし明細書」を領収書の代替としてご利用ください。

● コンビニ/ATM払いの場合

コンビニエンスストア店頭でお渡しする領収書をご利用ください。

● 上記以外の場合

経理上、注文内容の詳細を含む必要がある場合など、上記の書面をご利用いただけない場合は、Peatix上で表示される「領収データ」をご利用ください。

これらいずれの方法でも対応が難しい場合はお問い合わせフォームから個別にお問い合わせくださいませ。

当日資料について

● 講演および分科会で使用される登壇者資料は、資料の無断転送等を防止するために、10/18

（月）にHP上の参加申込者専用窓口にPDFファイルをアップいたします。サミット直前の時期で大変ご迷惑をかけますが、サテライト会場等の参加者への資料の印刷は、参加申し込みいただいた団体の方でお願いいたします。

イベントの収録DVDについて

イベント終了後に全体会・全分科会を収録したDVDを希望する方にご郵送いたします！Zoomで初開催の様子を全て収録しています。ぜひ、申し込みください！

【申込方法は2種類】

●お問い合わせフォームからのお申込み

お問合せフォームにアクセスして、必要事項を記入の上、「お問い合わせ内容」の欄に団体名、担当者名（お名前）、電話番号、送付先をご記入の上、DVD希望と入力して送信して下さい。

●FAXでのお申込み

申込用紙に必要事項を記入の上、FAXにて事務局宛にお送りください。

〈事務局〉介護福祉サーベিজパン株式会社

FAX 0166-73-8881

【郵送予定日】

2021年12月末までにご郵送予定

【注意事項】

イベント参加はせず、DVDのみのご希望も可能です。その場合も同様に上記の申込方法に沿ってお申し込みください。

※DVDのみの場合も料金は通常参加と同様です。

プライバシーポリシー

法令・規範の遵守

当団体は個人情報に関する法令・規範を遵守いたします。

安全管理対策

不正なアクセス、紛失、破壊、改ざん及び漏洩などが起きぬよう厳重に管理し、その他の安全管理のために、必要かつ適切な措置を講じます。お客様のご同意を得ることなく第三者へ開示・提供することはございません。（業務サービスを行うために業務委託先に必要な範囲で開示する場合はこの限りではありません。）

個人情報の取得

当団体は、適法かつ公正な手段によって、個人情報を取得します。

個人情報の利用目的

当団体はお客様の個人情報を、参加申し込みの際にWeb上で入力いただいた個人情報は、申込者管理とお申込者様との連絡のために利用させていただき、DVD発送等で利用させていただきます。また、サミット実行委員会事務局に提出させていただきます。それ以外の目的でご提供いただきました個人情報は利用いたしません。

個人情報の開示・変更・訂正について

ご住所の変更などを希望される場合や、ご登録内容に誤りがあることが判明した場合は、速やかに変更・訂正の対応をいたします。また、お客様が個人情報の開示をご希望される場合は、ご本人であることを確認させていただいた上で、ご依頼の個人情報についてお知らせいたします。

個人情報の利用停止について

ご登録情報の削除などをご希望される場合は、ご本人の確認をさせていただき、速やかに利用の停止・削除をさせていただきます。

クッキーの利用について

クッキー（Cookie）とは、ウェブサーバが皆様のコンピュータを識別する際の技術です。本サイトではこの技術を、利用者にとって使いやすいサービスを提供、またはアクセスログ解析のために採用しています。

個人情報に関するお問い合わせについて

個人情報及びその取扱いについては、当団体へお問い合わせください。

お問い合わせ

第14回全国校区・小地域福祉活動サミット in 北海道「イランカラプテからどうぞ」
へのお問い合わせは大会HPの「お問い合わせ」ページからお願いします。
参加方法などわからない点がありましたらお気軽にお問い合わせ下さい。